

〔曲名〕 Nozze in Montagna

I. L'Alba

II. Ballatella del Pastore

III. Paese in Festa

IV. Sposalizio

V. Banchetto Nuziale

VI. Festa Campestre

山国の婚礼

〔曲種〕 fantasia descrittiva

〔作曲者〕 V.Filippa

ヴィットリオ・フィリッパ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

叙景風な幻想曲で、黎明、牧人の踊り、祭の里、結婚式、婚礼の祝宴、田舎のお祭騒ぎの順に楽章を区切らず続けて演奏される。

山間の静かな村、山腹の広々とした牧場、さかづき形の丘にかかえられた湖、海まで続く緑の平原、正午の太陽のもとでは眠たげな山村、

そして小屋から教会堂に至る路、薔薇は年に二回花咲き、白鳥は草深い流れで餌をついばむ。

これが2000年来のイタリアの山村の姿である。

曲は描写風のものであるだけに極めて解りよく半世紀前のイタリア人の好みをよく現わしている。

マンドラの二重奏によって静かに山村の夜が明ける。

太陽の光が山腹を染め初める。

人々は今この山村に新しく生まれる新夫婦のことに思いを寄せる。

我がことのように一層朝の爽やかさを覚え、何となく浮きうきとなる。

牧人たちは足どりも軽く出かけるが、早くも村人たちは三々五々と集ってお祭り気分である。

一と騒ぎ収まったところで教会での結婚式がとり行なわれる。

壮重なオルガンの奏楽、次いで司祭により、神の前での花婿花嫁の宣誓、合唱、奏楽、

やがて大勢の村人たちの祝福、滞りなく式が終ると、今度こそ本当のお祭り気分で村人総出の祝宴が張られる。

新夫婦

そこのけでマツルカが踊り始められる。あちらでもこちらでも。

やがてマンドラの花婿の挨拶があるとあとはもう喧騒そのもの。

一人がお目出度うと大声に叫ぶと万才!!の声が山にこだまする。

もうチッとしてはいられない。

タンバリンの音を合図にイタリア名物タランテラが踊り初められる。

テンポは快調、踊りの垣塙（ルッポ）と化して果てしなく続き、最高潮に達して曲は終る。

1971年6月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第12集より